

海外安全対策情報（平成27年10月～12月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2015年1月1日から9月30日（2016年1月26日時点での最新情報）までのベラルーシにおける犯罪総数は72,735件で、昨年同時期と比較し3.8%増加しています。未成年者による麻薬犯罪が増加しているとの報道もありますので注意してください。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗	30,323 件（前年比 1.8%増）
（うち住宅対象侵入窃盗）	8,158 件（同 5.1%増）
イ 公然窃盗	1,655 件（同 2.1%減）
ウ 恐喝	117 件（同 17.0%増）
エ 詐欺	2,851 件（同 11.4%減）
オ フーリガン犯罪	2,823 件（同 41.9%増）
カ 殺人及び殺人未遂	319 件（同 3.6%減）
キ 重傷傷害	653 件（同 8.0%減）
ク 強盗	223 件（同 10.4%増）
ケ 強姦及び強姦未遂	108 件（同 5.9%増）

(2) 邦人被害事案は報告されていません。

(3) 2015年10月～12月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 10月2日、2015年4月に起こった殺人事件がゴメリ州裁判所で起訴された。事件の概要は次のとおり。

36歳の男が職場の同僚と酒を飲んだ後、社用車のバンで職場から戻る途中、突如同僚達に対する憎悪がわき上がり、8人が乗っている車内にガソリンを撒き、火をつけ、車外へ逃走した。運転手は車内での発火に気がつき、車を停めたため、5人は自力で車外へ逃げる事ができたが、3人は病院で死亡が確認された。

イ 10月13日、ミンスク州にて捜査中であった強盗事件の犯人2人が捜査の結果、特定され、拘束された。事件の概要は次のとおり。

9月1日昼、ミャヂェリスキー地区モクリツァ村の一軒家に男2人が侵入し、家主に暴行の後、現金とキャッシュカードを盗み、逃走した。キャッシュカードは逃走後2時間ほどの後、ATMで使用され、約250万ベラルーシ・ルーブル（約139米ドル）が引き出されていた。

ウ 11月4日、ミンスク市で空き巣を何度も働いていた2人の男が現行犯で逮捕された。逮捕当時、2人はウチェニチェスキー通りのアパートで、ノートパソコン2台、携帯電話、200万ベラルーシ・ルーブル（約111米ドル）とクレジットカードを盗んでいるところであった。そのうち1人は数ヶ月前に他のアパートに侵入したところ、家主と出くわし、2階から飛び降り両かかとを骨折したが、治療の後、再び盗みを働いていた。

エ 11月7日、ミンスク市にて6月に起こった強盗殺人事件が解決したところ、概要は次のとおり。

34歳の男性が職場から夜遅くに帰宅中、ミンスク市ザヴォツキー地区の停留所でバスから降りたところ、同じくバスから降りた男が近寄り、知り合いにならないかと持ちかけ、この新しい出会いを祝うために酒を飲みに行こうと提案した。男は男性を人気のないところに連れ込み、石や手足で暴行を加えた後に、被害者の首をナイフで少なくとも4回刺した。被害者は現場で死亡し、犯人は被害者のつけていた金製の指輪を奪い、最寄りの商店でビール2本、150,000ベラルーシ・ルーブル（約8米ドル）、及び10米ドルと交換した。捜査の結果、警察は犯人の身元を特定し、逮捕した。犯人はバスの車内にて被害者の金製の指輪に気がつき、奪うことを決めたと供述している。

オ 11月19日、ゴメリ州にて11人の未成年のサッカーファンにフリーガン行為や強盗などの容疑がかけられた。この11人は全員「Red Blue Legion」というネオナチの極右思想を流布する非公認団体のメンバーであることが分かった。犯人らのうち1人は、今年夏、未成年のスラヴ人系の容貌の女性に同年代のジプシー女性に暴力を振るうよう煽動したことが明らかとなっている。また、今年5月には、知人に暴行を加えた後、身ぐるみをはいで拘束し、被害者の体に鉤十字と卑猥な言葉を書き、そのまま街を走るよう強制したということも判明している。

カ 11月24日ブレスト州中心部のバー付近にて、サッカーファンの若者間で衝突が発生した。若者のうち1人が、止めに入った2人の通行人の顔に向けて催涙スプレーを噴射し、殴る、蹴るといった暴行を加えた。防犯カメラの映像の解析により犯人が特定され、犯人らは「No Comments」というネオ・ファシズムの極右思想を支持する青年運動のメンバ

一であることが明らかになった。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道を確認する等し、自身の安全確保に努めてください。